

はるか

ha ru ka

VOL.11

2003.10

『はるか』が新しくなりました。

今まで大切にしてきたこと。そしてこれからの大切なこと。

あなたと一緒に探していきたい。

新生『はるか』をよろしく願います。

特集/新編集委員くるまざトーク

- ・ジェンダーチェック レッツトライ!!
- ・あなたはDVを受けていませんか?していませんか?
- ・いきいきピープル
- ・『はるか』な声
- ・インフォメーション



特集

haruka

～新編集委員 くるまざトーク～

はじめの一步は気づくこと

『はるか』は市民のみなさんをつくっていきます

男女共同参画情報紙『はるか』はこの11号より、公募によって選ばれた編集委員も加わり、市民のみなさんと一緒につくる『はるか』に生まれ変わります。

そこで、新編集委員5人で、「男女共同参画」や「ジェンダー」をテーマに話し合ってみました。みなさんも一緒に考えてみませんか？



伊藤

「男女共同参画」とは？

佐藤：最近「男女共同参画」という言葉をよく聞くようになってきましたね。

久世：よく聞くのですが、いまひとつピンときません。

伊藤：「あなた働いて。私、家庭を守るわ」ではなく、お互いがパートナーとして、利益も責任も、対等に分かち合うようにしていくことでしょう。重要なことがらの決定に計画の段階から共に加わっていくという意味で、単なる参加でなく「参画」という言葉が使われているのですね。男女が平等で性別による偏りのない、誰にとっても生きやすい「男女共同参画社会」をめざしたいですね。

佐藤：今の年金制度を見ても、考えさせられる面がありますね。改正に向けての声が上がってきているようです。

西田：実は、私自身、男女共同参画について疑問視するような感覚も持っていました。還暦を迎えて7年、今から固定観念を打破していくのは難しいという気持ちもありますが、なるほどと思ったことから、一つずつ、意識改革を進めています。

「ジェンダー」とは？

西田



西田：ところで、私はジェンダーという言葉に、最近まであまり関心がありませんでした。

生まれつきの性別とは違った、「社会的、文化的につくられた性差」のことですね。

本田：いわゆる「男らしさ」「女らしさ」というもののことですね。介護などの場面を見ても、妻がやって当たり前という雰囲気は、やはりいまだにあると思います。

伊藤：私は小さいころから関心がありました。中学生のころに「だから女の子はダメなんだ」と言われ、強く印象に残ったことがあります。

久世：介護施設の方から、「お前を信用してるから、親の面倒は全面的にまかせた」と妻に向かって話す夫がいると聞いて、何だか割り切れないものを感じたところから、興味を持ちました。



本田

男性には男性なりの息苦しさがある。

本田：女性ばかりではなく、「男だから」「男のくせに」と言われることに息苦しさをを感じる男性もいるでしょうね。

久世：「女性差別」だけがジェンダー問題ではないですね。「長男の責任」に縛られていると感じている男性もいるでしょう。

佐藤：家父長制は、ジェンダーの最たるものですね。

男女ともに「こうすべき」から見直す時代になってくると思います。

「男のくせに」と言われ追い詰められたとき、男性は女性よりも声を上げづらい面は大きいでしょうね。ますます「男らしくない」と言われてしまうかもしれない。

久世

「自分らしく」が一番むずかしいことかも



久世：男女の枠とか、「こうあるべき」という型にはまることは、ある意味、楽かも。そのとおりやっていけば、ある程度、世間からは認められるから。もう型にはまらなくていい、

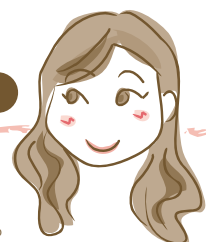
自由だと言われたとき、「自分らしさ」を見つけていくのが、一番むずかしいのかもしれないですね。

伊藤：小さなころから「どうしてみんな、男だから、女だからと言うのだろう、私らしいではダメなのだろうか」と思っていました。

西田：我が家は共働きでしたから、私も家事をしました。疲れているのはお互いさまです。男だから、女だからではなく、気づいて、自ら動くことが一番大事なのではないでしょうか。

まずは身の回りのことから

佐藤



佐藤：子どもが生まれてから、この国に生まれた自分は幸せだと、感じるようになりました。戦争、飢えで、命を亡くす子どもたちを見ると、やり切れない気持ちになります。

ジェンダー問題とは一見無関係のようですが、根底は、お互いを大切に思う小さな気持ちの積み重ね。同じ問題だと感じるようになりました。

本田：子どもの存在は大きいですね。立場が変わると新しい発見もありますね。

久世：日常、疑問に思ったことを口に出してみるだけでも大きな変化につながりますね。みんなが「普通」だと思っていることが案外、ただの「思い込み」にすぎないかもしれません。

西田：小さな積み重ねこそが物事の源ではないでしょうか。

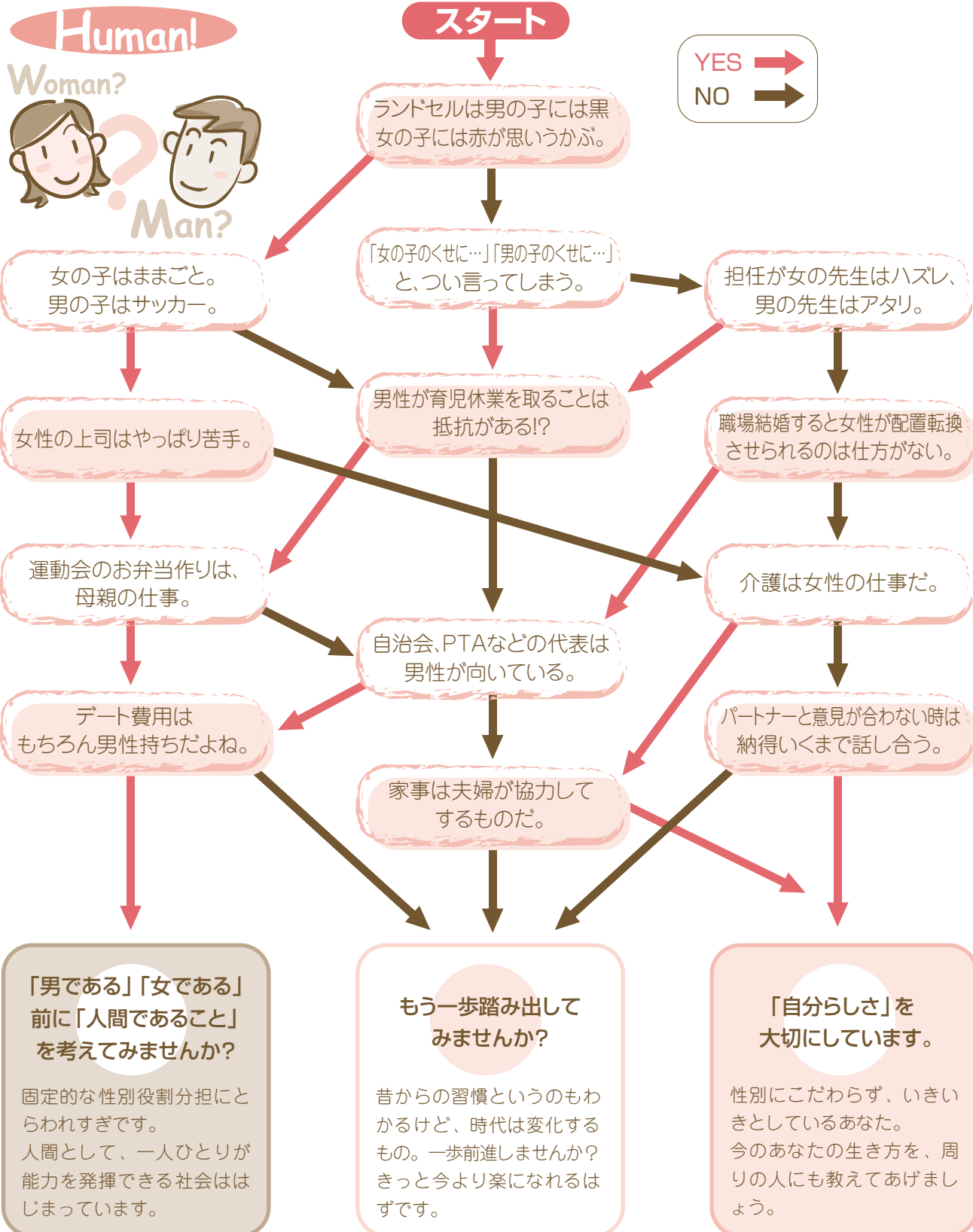
佐藤：まずは身の回りのジェンダーに気づくことが、様々な問題を考える第一歩になると思います。

小さな声にも耳を傾けていきます

「自分らしさって何だろう」を考えながら『はるか』をつくっていきたいと思います。
市民のみなさんと一緒になって、小さな声にも耳を傾けていきます。
みなさん、これからも『はるか』をよろしくお願いいたします。

ジェンダーチェック レッツトライ!!

あなたは「女らしさ」「男らしさ」を大切にしますか？
それとも**「自分らしさ」**を大切にしますか？



あなたはDV(夫・恋人からの暴力)を受けていませんか? していませんか?

●DVとは…

法的に結婚している、していないにかかわらず、夫や恋人など「親密な関係にある」又は、「親密な関係にあった」男性から女性に対して、行われる暴行・虐待のことを**DV(ドメスティック・バイオレンス)**と言い、女性の心身と尊厳を傷つける犯罪行為です。

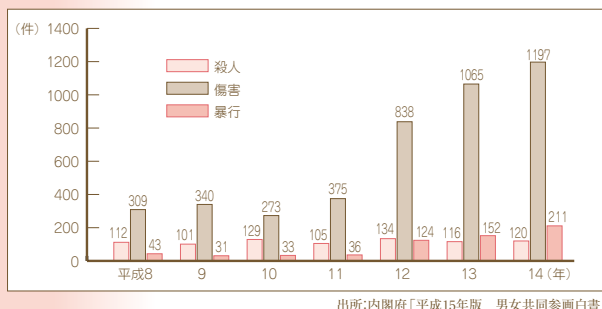
内閣府による調査(平成14年10月～11月、全国男女4500人対象、有効回答率78.3%)の結果からも、女性回答者の4.4%(約20人に1人)が、前述の男性から「生命の危機を感じるくらいの暴行を受けた」という、深刻な実態が明らかになっています。

DVには殴る、蹴る、引きずりまわすなどの**身体**

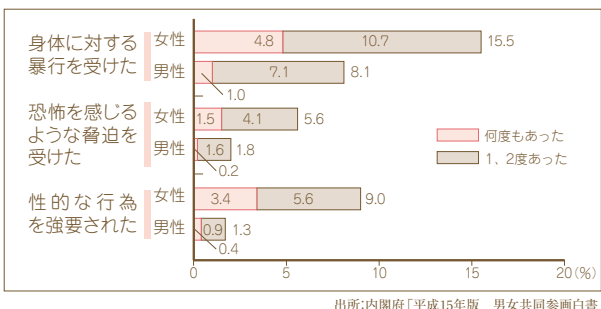
的暴力、大切にしているものを壊すなどの**精神的暴力**、実家や友人との付き合いを制限する、外出をさせないなどの**社会的暴力**、生活費を渡さない、生活していけない程度の額しか渡さないなどの**経済的暴力**、「お前は何もできない」「だれに食わせてもらっている」などの**言葉の暴力**、望まない性行為の強要、無理にポルノ雑誌を見せるなどの**性的暴力**があります。

どんなに親しい間柄であっても、「暴力は人権侵害であり、犯罪である」ということを、当事者はもちろん、社会全体でしっかりと認識していくことが必要です。悪いのは暴力をふるう相手です。一人で悩まず、まず、相談しましょう。

●夫から妻への犯罪の検挙状況



●配偶者等からの被害経験(複数回答)



主な相談窓口

●愛知県女性相談センター(女性悩みごと電話相談) ☎052-913-3300
午前9時～午後9時(土・日・祝日・年末年始は休み)

●愛知県警春日井警察署 ☎(代)56-0110



●レディヤンがすがい

お問い合わせ:青少年女性センター ☎85-4188

女性相談 ☎85-7871	火曜日 午前10時30分～午後3時	県相談員	夫婦間のトラブル、結婚、男女問題、家庭内の不和などについて
男女人権相談 ☎89-3067	水・金曜日 午後1時～午後4時30分	カウンセラー	性別による差別的取り扱い、セクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンスによる人権侵害について
家庭相談 ☎85-7871	木曜日 午後2時～午後4時	家庭・児童相談員	家庭内における子育てや女性の悩みについて
女性専門相談 (法律・予約制)	第1・3土曜日 午前10時～正午	弁護士	夫婦間、金銭、相続など、女性の身の回りの法律問題について
女性専門相談 (心の相談・予約制)	第2・4土曜日 午前10時～正午	カウンセラー	女性の不安や悩みなど心の整理への支援について

※女性専門相談の予約 ☎85-4188 午前9時～午後5時受付 ※女性専門相談(法律・心の相談)は祝日も実施します。
※女性相談は、月曜日及び火曜日が祝日の場合休みとなります。 ※相談をお受けするのは、すべて女性です。

いきいき

ピープル

このコーナーでは、春日井市内で活躍する“いきいきピープル”を紹介します。

第1回は、春日井市立保育園初の男性保育士として今年度採用され、岩成台保育園で活躍されている「小柳 幸史（こやなぎ こうじ）さん」です。

小柳さん、そして小川幸子園長にお話をうかがいました。



Q: どうして保育士の道を選んだのですか？

それは、いつ頃から考えていましたか？

A: 幼い頃からサッカーを続けています。子どもが大好きなので自分の得意なサッカーを通じて、子どもたちとふれあっていきたいと漠然と思っていました。高2の冬の終わり頃、友人が保育の短大を受験するという話を聞きました。それも一つのきっかけとなり、保育士をめざそうと決意を固めました。

Q: その決意をご両親にお話しされたときは、何と言われましたか？

A: 父も母も、「目標に向かってがんばりなさい」と応援してくれました。特別、保育士が女性の職業であるというような偏見はなかったようです。

Q: 実際、保育士になってどうですか？

A: 子どもたちは、純粋で、自分が思っていた通り元気の塊です。日に日に成長していく姿を見るのも、とても楽しみです。つらいと思ったことは、ありません。

Q: 園長をはじめ、まわりは全員女性ですね。その点はいかがですか？

A: 孤立感はありません。むしろ、自分でしかできないことを積極的にやっていって、女性の先生たちと協力し合えば、よりよい保育ができると思っていますから。

Q: 保育とは、何だと思いますか？

A: 保育とはというか、子ども自身が自分たちだけでお互い助け合ったりして、色々な事に取り組んでいけるよう、手を差し伸べることができればと思っています。そして、一人ひとりの心を大切にしたいですね。

Q: 小川園長に伺います。小柳さんが来られてどうですか？

A: きめ細やかで、よく気配りのできる人です。

ほかの職員とも違和感なく溶け込んでくれました。園の雰囲気もチームワークも、ますますよくなった感じです。

ありがとうございました。



●レポートを終えて

「今の子どもたちは、もっと愛情を欲しがっているんです」と小柳さんが話しておられました。子どもを愛する気持ちに性別は関係ありません。

今まで保育の世界に男性がいなかったことの方が、不思議だったんだという思いに強くさせられました。

あなたのお近くの**いきいきピープル**をご紹介します!!

『はるか』な声

男だから？

堀 敦子

ある日、皆での夕食時に、一番先に食べ終わって自分の食器を流しに持って行った息子に、「みんなのお茶をいれて」と声をかけた私。それを睨むように見たのは夫でした。

「息子にそんなことをさせるのか」と、声には出さないものの、もう充分に物語っているその目でした。すかさず私は、「これからの時代は男も女もないのよ。できる人がやればいいの…」とこたえました。

男だから、女だからと暗黙の押しつけが意外に多い。炊事・洗濯・料理など、一度にはムリでも、ゴミ出しやフロ掃除など、少しずつ夫や息子にも機会を見つけて経験していただこうと思います。

私たち夫婦や娘、おばあちゃん、自分の分も含めて、その時に息子が入れてくれた五人分のお茶は、ちょっと薄かったけど、とっても美味しかったです。

私の生き方変えた一言

深尾 美佐子

「ねえ、貴女って結婚は考えているの？」と娘に聞いてみた。

「もちろん。だけどお互いが幸せだと感じなければ一緒に暮らす意味はないしね。そう思える人に出会ったらするわ」というのが答えだった。

考えてみれば当たり前の答えなのに私はショックを受けた。

なぜか耐えて我慢をしていれば幸せが待っていると錯覚して、結婚生活をおくってきたような気がしたからだ。

今、女性が結婚をしたがらないのは、母親が結婚して良かったと思っていないことに気づいているからではないだろうか。

熟年離婚が多いのも、同じようなところに原因があるように思われる。

「自分らしく生きる」「耐えるばかりでなく嫌な事はノーと言う」ことにした。

人間、決心をしたら強くなった気がする。

●みなさんからのエッセイ(500字程度)を募集しています。

●トピックス 「女性のためのエンパワメントセミナー」受講生へのアンケートより

7月9日からレディヤンかすがいにおいて「女性のためのエンパワメントセミナー」が始まりました。そこで、受講者の方々の声をお聞きました。受講者の年齢は30代前半から彼女たちの母親世代に当たる人たちまで、幅広い層から集まっていました。

「このセミナーを受講したいと思った理由」は、女性問題に関心があった、知識を深めたいの他に、託児付きだったからという意見も多く、いかに若い母親が、子どもを安心してあずけて学べる場所を必要としているかを物語っていました。

「セミナーに参加しての感想」は、緊張感が良い刺激になり、楽しく有意義な時間だったという意見が多く占めました。認識不足を思い知らされたという意見もありました。

「セミナーに関連したことで、今、一番関心のあること」は、ジェンダーに関すること、DVという声が多くありました。

「身の回りで変だなと思うこと」は、決定権が男性にあること、育児休業を男性がとらない、介護の押しつけなど、いろいろありました。

「今後どんな講座の内容を期待しますか」には、夫婦で参加できる料理、家事、育児、介護教室、男性学、節約の話、これからも託児付きの講座をなどの意見がありました。

「その他」として、男性も世間体を気にせず介護に協力を、男性にもこういったセミナーに参加を、など男性に対する注文と、ここでも託児付きの講座の充実の意見が出ました。

●エンパワメントとは、自己のなかに力を蓄え、積極的な自分を創り出すこと。



第2回 かすがい男女共同参画市民フォーラム

かがやく個性 のびやかな暮らしを求めて
～男女共同参画推進条例を実りあるものに～

●内容

1.市民による体験発表

2.ミニコンサート

〈出演〉コンサートグループ「花の詩」

3.講演

すべての人がビューティフル
～みんなが輝いて生きる為に～

講師/遙 洋子(タレント・作家)

〈主催〉

かすがい男女共同参画市民フォーラム実行委員会
春日井市



■と き/平成15年11月22日(土)
午後1時30分開演(午後1時開場)

■ところ/レディヤンかすがい

〈定員〉400人

〈申込み〉10月27日(月)〈必着〉までに、往復ハガキ(1枚につき1人)に住所、氏名、年齢、電話番号《託児希望者は「託児希望」と子どもの名前(ふりがな)・年齢・性別》を記入して、〒486-8686春日井市役所青少年女性課内、かすがい男女共同参画市民フォーラム実行委員会へお送り下さい。

〈問い合わせ先〉

春日井市市民経済部青少年女性課

☎85-6152

うえいっくあっぷセミナー開催のお知らせ

男女の自立したパートナーシップを確立するため、男女のコミュニケーションや生活スタイルなどについて考えます。

回	開催日	テーマ
1	11月18日(火)	もう一度見つめ直す「夫」と「妻」の関係
2	12月 2日(火)	わたしのライフスタイル ～これからの人生を考える～

●講 師 宇部フロンティア大学教員 石田 路子

●場 所 レディヤンかすがい

●時 間 午後1時30分～午後3時30分

●定 員 40人

●託 児 あり

※募集方法等については、10月15日号「広報春日井」をご覧ください。

編集後記

男女平等の考えと編集の仕事に関心を持っていました。皆さんと力を合わせ新生『はるか』を生み出すことができ、編集の大変さと楽しさを感じています。〈伊藤〉

読まれた方の心の中で、何か新しい発見があると嬉しいです。〈久世〉

男女共同参画の第一歩は“気づき”です。ちょっとした“気づき”から、家庭を、職場を変えてみませんか。あなたの“気づき”を私たちにも教えて下さいね。〈佐藤〉

『はるか』の編集委員の委嘱を光栄に思います。反面、今なお多くの女性が、暴力に怯え苦しむ実態に心が痛みます。人として互いに尊重し合える、明るい社会の構築を!!〈西田〉

行儀の悪い私は「女らしくしなさい」とよく言われたけれど、女とは何か、男とは何か、『はるか』の編集をすることにより、もう一度考え直す良い機会ができたと思います。〈本田〉

かすがい市男女共同参画情報紙 『はるか』vol.11
2003年10月発行

企画・編集 はるか編集委員

発 行 春日井市市民経済部青少年女性課

〒486-8686 春日井市鳥居松町5-44

TEL0568-85-6152 FAX0568-85-3786

Eメール sesyojo@city.kasugai.aichi.jp

市民編集委員の企画・編集による新生『はるか』いかがでしたか?ぜひ、みなさんのご意見・ご感想をお寄せ下さい。

また、『はるか』で取りあげたい内容がありましたら、併せてご記入下さい。

100%再生紙を使用しています。



ISO14001認証取得
「環境にやさしい自治体 春日井市」